

「世界の北海道」を目指して
—北海道総合開発計画—

ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

北海道白老町に2020 OPEN!

令和2年1月24日

北海道開発局 広報室

電話 011-709-2311

内線 5227・5228

北海道開発記者クラブ加入各社

北海道建設記者会加入各社 殿

平成30年度 建設副産物実態調査結果（北海道地方版）

北海道地方建設副産物対策連絡協議会（事務局：北海道開発局）では、平成30年度に北海道地域の建設工事から排出された建設副産物を対象として、排出量・再資源化率等についての調査を行い、結果を取りまとめましたので公表いたします。

●建設副産物実態調査とは

- ・全国の建設工事や再資源化施設等を対象に、建設副産物の発生量、再資源化状況及び最終処分量等の動向に関する実態を把握するため、おおむね5年ごとに実施している統計調査です。
- ・調査結果は建設リサイクルに関する諸施策の策定及びその効果の進捗状況の把握等に役立てています。

●調査結果の概要

（1）建設廃棄物

平成30年度の建設廃棄物の再資源化・縮減率は、約94.9%と前回調査（平成24年度）より1.4ポイント上昇しています。品目別にみると、アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊はほぼ横ばいですが、建設汚泥は上昇しています。【参考資料1-1参照】

また、平成30年度の建設廃棄物の搬出量は、約426万トンとなり、前回調査（平成24年度）より約19.7%増加していますが、最終処分量は約22万トンと前回調査（平成24年度）より約5.5%減少しています。【参考資料1-2参照】

（2）建設発生土

平成30年度の建設発生土有効利用率は約81.6%と前回調査（平成24年度）より0.7ポイント上昇しています。【参考資料1-1参照】

また、平成30年度の建設発生土の搬出量は、約1,425万m³となり、前回調査（平成24年度）より約13.3%増加しています。【参考資料1-2参照】

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 電話（代表）011-709-2311

事業振興部 技術管理課 課長補佐 高野 眞司（内線 5653）

事業振興部 技術管理課 技術調査係 中川、河崎（内線 5654）

北海道開発局ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/>



平成30年度建設副産物実態調査結果(北海道地方版) 参考資料

1. 建設副産物の再資源化の動向関連資料

- ・建設廃棄物は、前回調査(平成24年度)に比して、1.4ポイント増。さらに、品目別にみると、建設汚泥、建設混合廃棄物(排出率)については「北海道地方建設リサイクル推進計画2015」の平成30年度目標を達成している。
- ・建設発生土は、前回調査(平成24年度)に比して0.7ポイント増し、平成30年度の目標を達成している。

表. 建設副産物^{注1)}の再資源化率^{注2)}や再資源化・縮減率^{注3)}の状況及び「北海道地方建設リサイクル推進計画2015」^{注4)}の目標

	平成20年度 (A)	平成24年度 (B)	平成30年度 (C)	平成30年度(C) -平成24年度(B)	北海道地方 建設リサイクル推進計画2015
					平成30年度 目標値
アスファルト・コンクリート塊の再資源化率	98.9%	98.4%	98.5%	0.1%	99%以上
コンクリート塊の再資源化率	96.8%	98.2%	98.0%	-0.2%	99%以上
建設発生木材の再資源化・縮減率 ^{注5)}	96.2%	93.8%	93.3%	-0.5%	95%以上
建設汚泥の再資源化・縮減率	83.3%	60.7%	85.4%	24.7%	82%以上
建設混合廃棄物の再資源化・縮減率	25.8%	15.0%	7.9%	-7.1%	25%以上
建設混合廃棄物の排出率	3.3%	2.8%	1.7%	-1.1%	2.8%以下
建設廃棄物の再資源化・縮減率	94.5%	93.5%	94.9%	1.4%	96%以上
建設発生土有効利用率 ^{注6)}	75.6%	80.9%	81.6%	0.7%	80%以上

注1) 建設副産物：建設工事に伴って副次的に得られる物品であり、建設廃棄物(コンクリート塊、建設発生木材など)及び建設発生土(建設工事の際に搬出される土砂)の総称。

注2) 再資源化率：建設廃棄物として排出された量に対する再資源化された量と工事間利用された量の合計の割合。

注3) 再資源化・縮減率：建設廃棄物として排出された量に対する再資源化及び縮減された量と工事間利用された量の合計の割合。

注4) 「北海道地方建設リサイクル推進計画2015」(北海道地方建設副産物対策連絡協議会 平成27年7月策定)
参照URL：https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/jg/gi_jyutu/ud49g7000000i31c.html

注5) 建設発生木材については、伐木材、除根材等を含む数値である。

注6) 建設発生土有効利用率：建設発生土の建設工事における有効利用率の実績値について、平成24年度建設副産物実態調査公表時(平成26年3月27日)には、平成20年度68.6%、平成24年度75.6%と算出し、これに内陸受入地の約1/3は採石場跡地復旧や農地受入等が含まれているとみなして平成30年度の目標値を設定した。

平成30年度建設副産物実態調査においては、平成20年度、24年度実績値として、内陸受入地のうち、工事予定地、採石場・砂利採取跡地等復旧事業、廃棄物最終処分場(覆土としての受入)、建設発生土受入地(農地受入)を有効利用として算出した。

2. 排出量の動向 関連資料

- ・建設廃棄物は、前回調査(平成24年度)に比して、約19.7%増、最終処分量は約5.5%減である。
- ・建設発生土は、前回調査(平成24年度)に比して、約13.3%増である。

(1) 建設廃棄物

表1. 建設廃棄物搬出状況

(単位: 万トン)

調査年度	排出量	再資源化量		
		再資源化量	縮減量	最終処分量
平成24年度(A)	356	327	6	23
平成30年度(B)	426	401	4	22
増減量(B) - (A)	70	74	-3	-1
増減率(B) / (A)	0	0	0	0

注) 四捨五入の関係上、数値があわない場合がある。

(2) 建設発生土

表2. 建設発生土の搬出状況

(単位: 万m³)

調査年度	搬出量	再資源化量		
		工事間利用	土質改良プラント	内陸受入地
平成24年度(A)	1,258	438	13	807
平成30年度(B)	1,425	474	21	929
増減量(B) - (A)	167	37	8	122
増減率(B) / (A)	13.3%	8.4%	62.6%	15.1%

注) 四捨五入の関係上、数値があわない場合がある。

単位：万トン

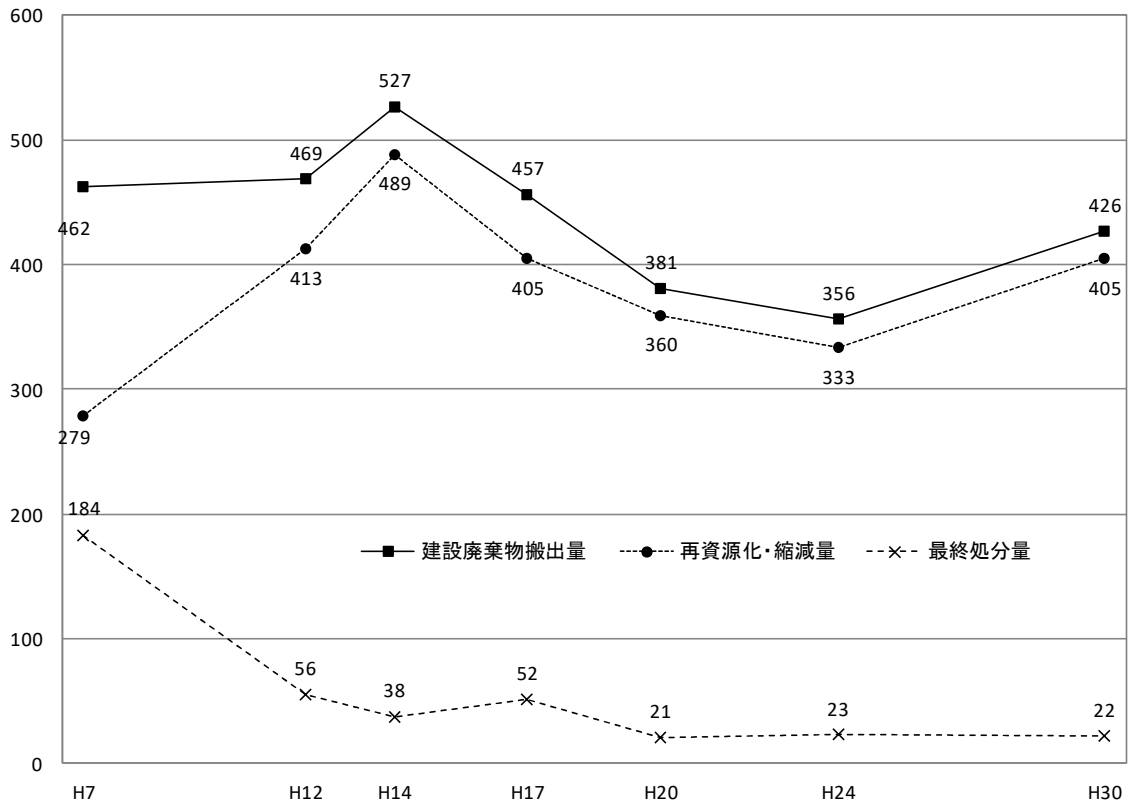


図1. 建設廃棄物の搬出量、再資源化・縮減量及び最終処分量の経年変化

単位：万トン

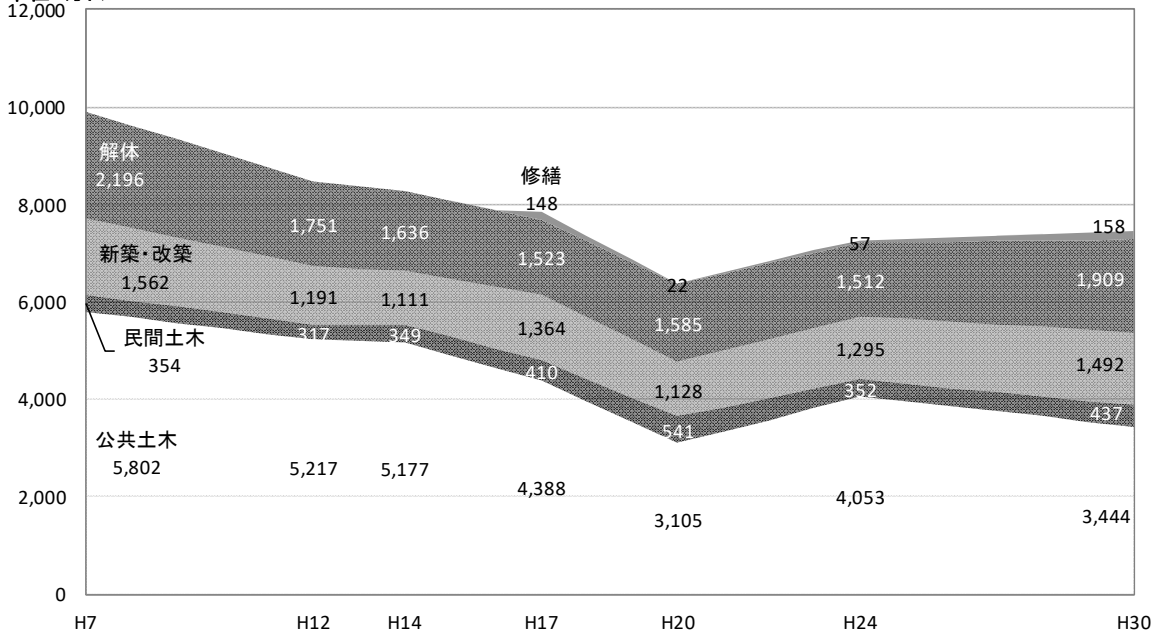
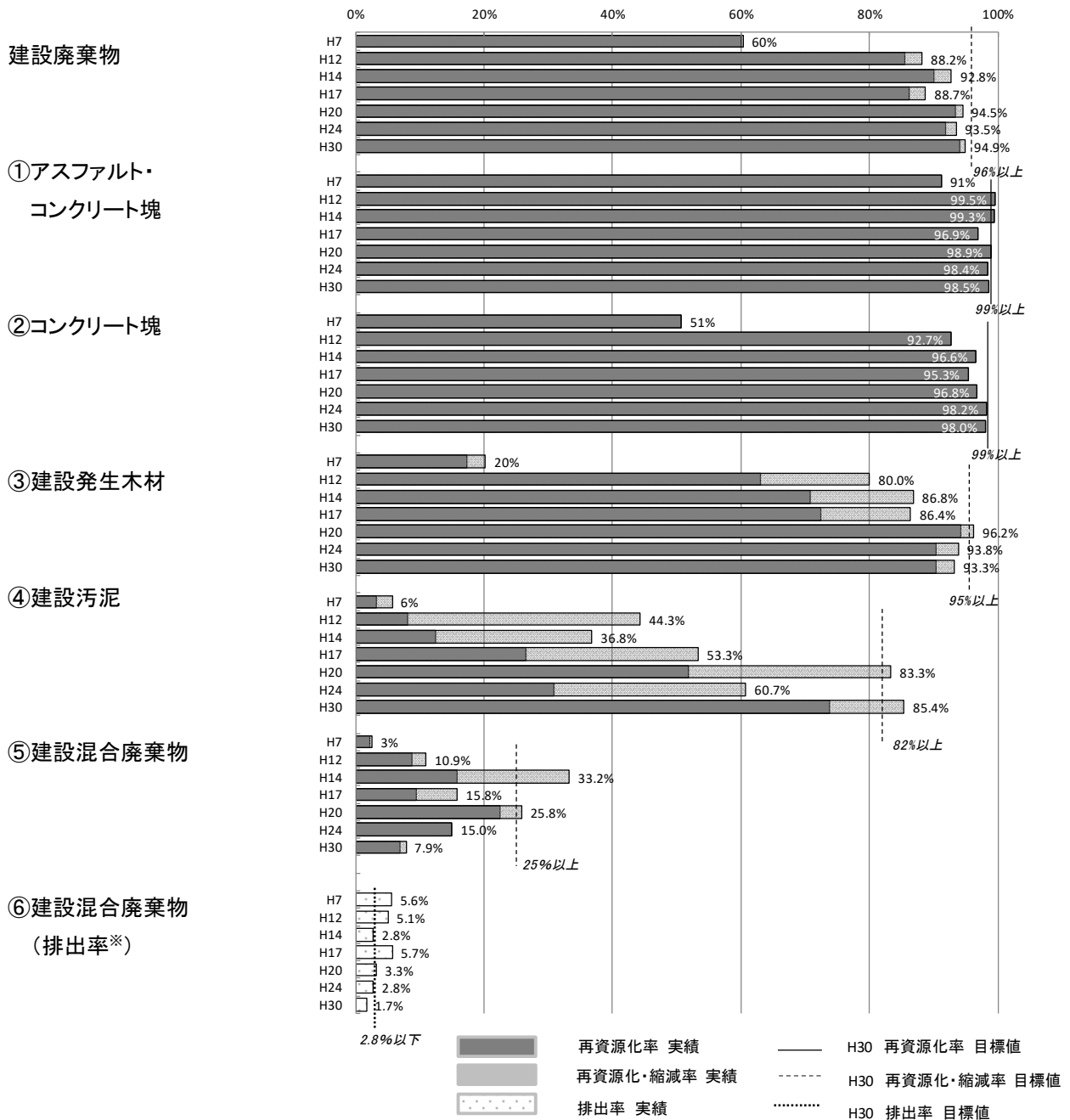


図2. 建設廃棄物の工事区分別搬出量の経年変化

2. 再資源化率等の状況 関連資料

(1) 建設廃棄物の再資源化率等

- ・建設廃棄物は、平成7年度以降上昇傾向にあり、特にアスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊は、平成12年度以降、高い再資源化率を保持している。
- ・建設発生木材の再資源化・縮減率は、平成20年度以降、横ばいの状況となっている。



※排出率: 前計画「北海道地方建設リサイクル推進計画2008」までは、建設混合廃棄物の管理指標として「排出量」を設定していたが、工事量の増減により適切な評価が困難なため、「排出率」を「北海道地方建設リサイクル推進計画2015」(平成27年7月)で新たに設定した。具体的には次式で算出する。

$$(\text{建設混合廃棄物排出率}) = (\text{建設混合廃棄物排出量}) / (\text{建設廃棄物全体排出量})$$

図3. 建設廃棄物の再資源化率等

(2)建設発生土有効利用率

・建設発生土有効利用率は、平成 20 年度以降、上昇傾向にあり、かつ、「北海道建設リサイクル推進計画2015」で定めた目標値を達成している。

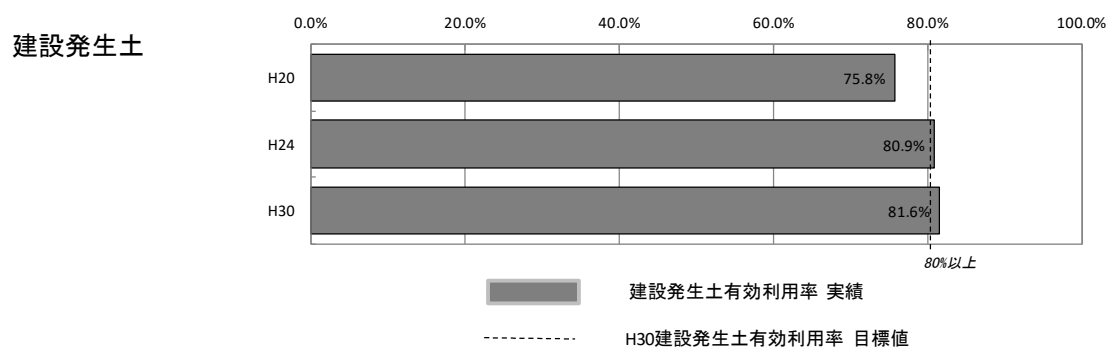


図4. 建設発生土有効利用率

注) 建設発生土有効利用率：建設発生土の建設工事における有効利用率の実績値について、平成24年度建設副産物実態調査公表時（平成26年3月27日）には、平成20年度68.6%、平成24年度75.6%と算出し、これに内陸受入地の約1/3は採石場跡地復旧や農地受入等が含まれているとみなして平成30年度の目標値を設定した。

平成30年度建設副産物実態調査においては、平成20年度、24年度実績値として、内陸受入地のうち、工事予定地、採石場・砂利採取跡地等復旧事業、廃棄物最終処分場（覆土としての受入）、建設発生土受入地（農地受入）を、有効利用として算出した。

(3) 建設廃棄物の品目別再資源化率等

表3. 品目別再資源化率、再資源化・縮減率

(単位: 万トン)

	場外搬出量	①+②+③			再資源化率	再資源化・縮減率	排出率
		①再資源化量	②縮減量	③最終処分量			
H07	アスファルトコンクリート塊	196	179	0	17	91.2%	
	コンクリート塊	181	92	0	89	50.7%	
	建設汚泥	32	1	1	30	3.2%	5.7%
	建設混合廃棄物	26	1	0	25	2.2%	2.6%
	建設発生木材	24	4	1	19	17.3%	20.2%
	その他(廃プラスチック、紙くず、金属くず)	3	1	0	2		
建設廃棄物合計	462	277	2	184	60.0%	60.3%	
H12	アスファルトコンクリート塊	195	194	0	1	99.5%	
	コンクリート塊	192	178	0	14	92.7%	
	建設汚泥	15	1	5	8	8.1%	44.3%
	建設混合廃棄物	24	2	1	21	8.8%	10.9%
	建設発生木材	37	23	6	7	63.0%	80.0%
	その他(廃プラスチック、紙くず、金属くず)	6	2	0	4		
建設廃棄物合計	469	401	12	56	85.6%	88.2%	
H14	アスファルトコンクリート塊	191	189	0	1	99.3%	
	コンクリート塊	252	243	0	9	96.6%	
	建設汚泥	15	2	4	10	12.4%	36.8%
	建設混合廃棄物	15	2	3	10	15.8%	33.2%
	建設発生木材	48	34	8	6	70.8%	86.8%
	その他(廃プラスチック、紙くず、金属くず)	6	4	0	2		
建設廃棄物合計	527	474	14	38	90.1%	92.8%	
H17	アスファルトコンクリート塊	146	141	0	4	96.9%	
	コンクリート塊	212	202	0	10	95.3%	
	建設汚泥	10	3	3	5	26.6%	53.3%
	建設混合廃棄物	26	2	2	22	9.5%	15.8%
	建設発生木材	44	32	6	6	72.4%	86.4%
	その他(廃プラスチック、紙くず、金属くず)	18	13	1	5		
建設廃棄物合計	457	394	12	52	86.2%	88.7%	
H20	アスファルトコンクリート塊	126	124	0	1	98.9%	
	コンクリート塊	191	185	0	6	96.8%	
	建設汚泥	10	5	3	2	51.8%	83.3%
	建設混合廃棄物	12	3	0	9	22.5%	25.8%
	建設発生木材	36	34	1	1	94.2%	96.2%
	その他(廃プラスチック、紙くず、金属くず)	6	4	0	1		
建設廃棄物合計	381	355	4	21	93.3%	94.5%	
H24	アスファルトコンクリート塊	133	131	0	2	98.4%	
	コンクリート塊	164	161	0	3	98.2%	
	建設汚泥	17	5	5	7	30.8%	60.7%
	建設混合廃棄物	10	1	0	8	14.9%	15.0%
	建設発生木材	25	23	1	2	90.3%	93.8%
	その他(廃プラスチック、紙くず、金属くず)	6	4	0	1		
建設廃棄物合計	356	327	6	23	91.8%	93.5%	
H30	アスファルトコンクリート塊	109	107	0	2	98.5%	
	コンクリート塊	242	237	0	5	98.0%	
	建設汚泥	20	15	2	3	73.7%	85.4%
	建設混合廃棄物	7	0	0	7	6.9%	7.9%
	建設発生木材	37	34	1	3	90.4%	93.3%
	その他(廃プラスチック、紙くず、金属くず)	11	7	0	3		
建設廃棄物合計	426	401	4	22	94.0%	94.9%	

注) 四捨五入の関係上、合計値とあわない場合がある。

再資源化率: ①÷(①+②+③)

再資源化・縮減率: (①+②)÷(①+②+③)

※排出率: 前計画「建設リサイクル推進計画2008」までは、建設混合廃棄物の管理指標として「排出量」を設定していたが、工事量の増減により適切な評価が困難なため、「排出率」を「建設リサイクル推進計画2014」(平成26年9月)で新たに設定した。具体的には次式で算出する。

$$(\text{建設混合廃棄物排出率}) = (\text{建設混合廃棄物排出量}) \div (\text{建設廃棄物全体排出量})$$

単位：万トン

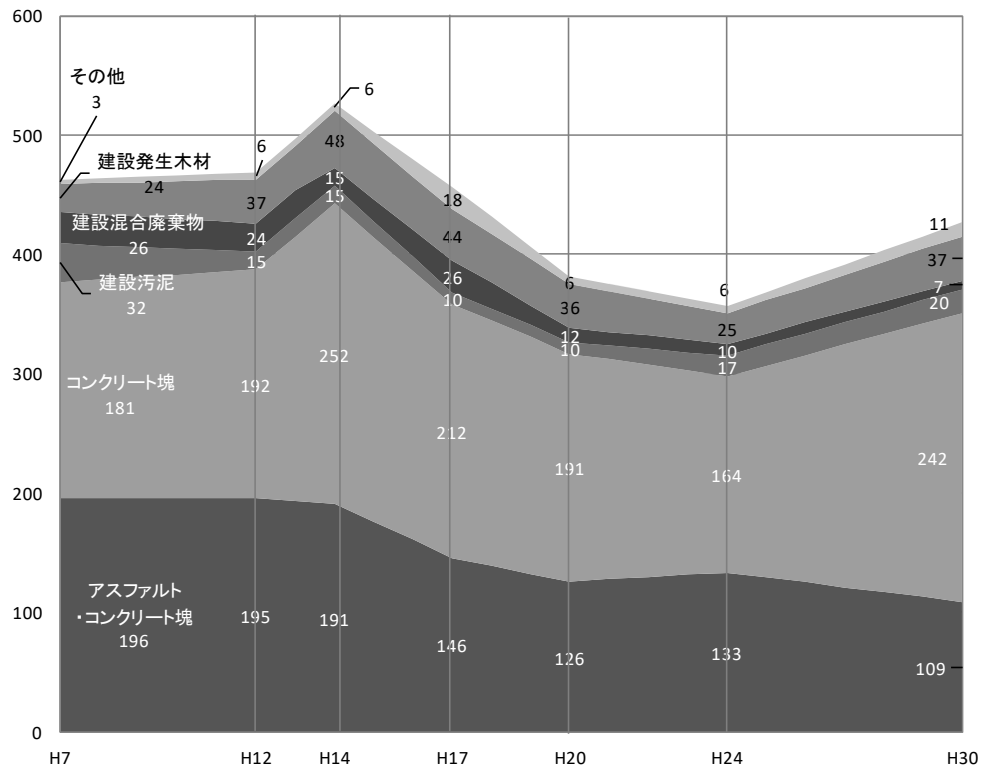


図5. 品目別建設廃棄物の排出量

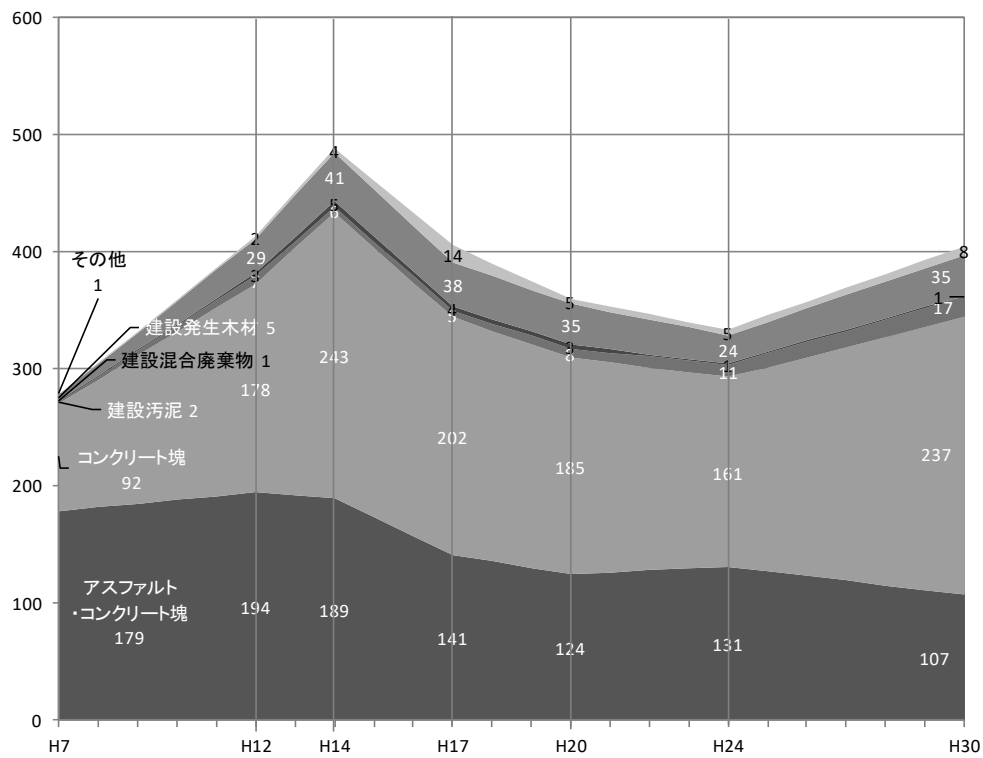


図6. 品目別再資源化・縮減量

単位：万トン

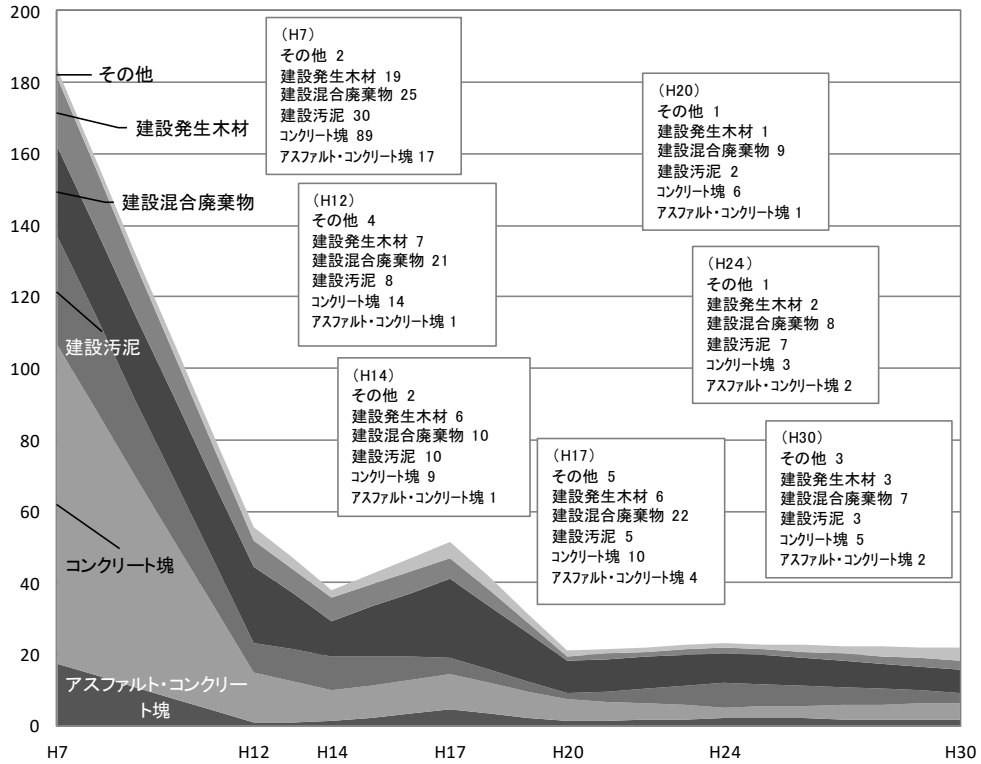


図7. 品目別最終処分量

(4) 建設発生土の場外搬出量及び土砂利用搬入量

単位: 万m³

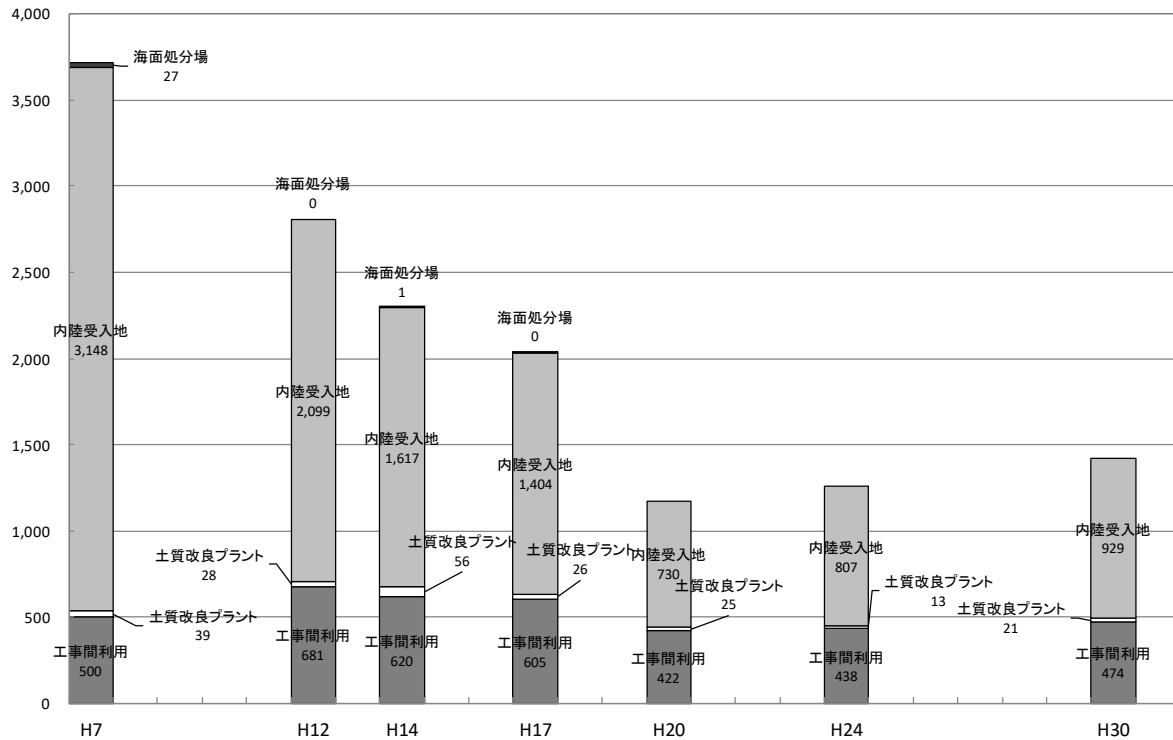


図8. 建設発生土搬出状況

単位: 万m³

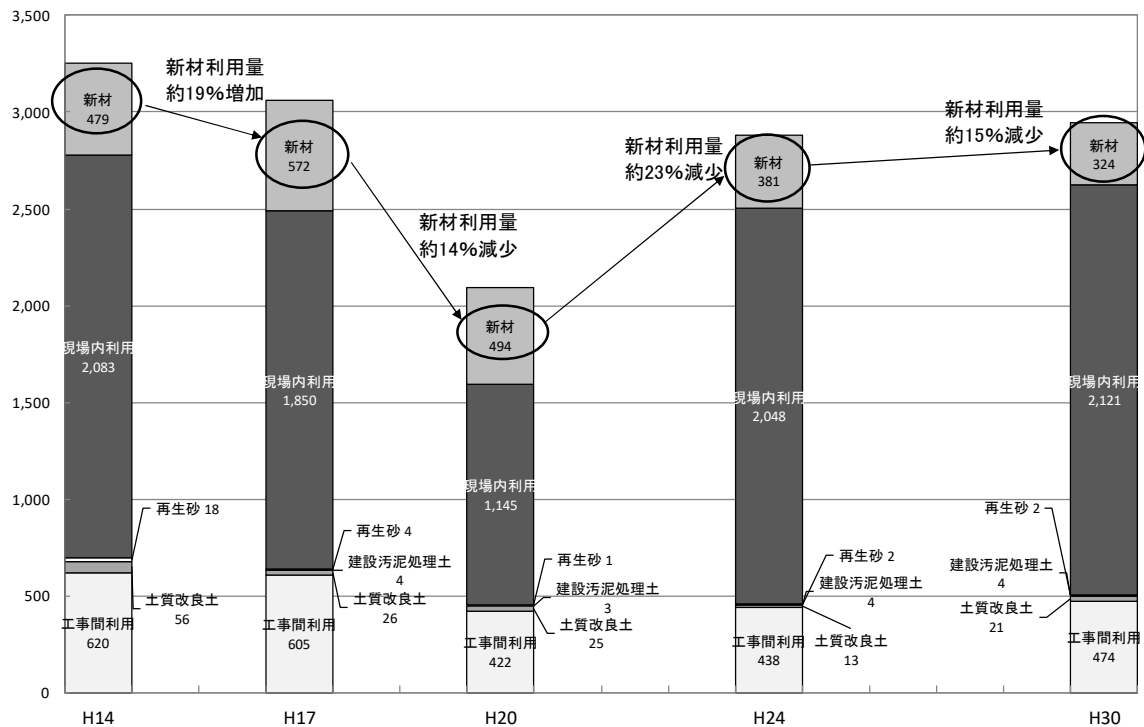


図9. 土砂利用搬入状況

表4. 利用土砂の搬入利用状況

(単位:万m³)

	平成7年度	平成12年度	平成14年度	平成17年度	平成20年度	平成24年度	平成30年度
土砂利用量	1,751	1,659	3,256	3,061	2,090	2,884	2,946
②工事間利用	500	681	620	605	422	438	474
③土質改良土	39	28	56	26	25	13	21
⑥建設汚泥処理土	0	0	0	4	3	4	4
⑦再生砂	13	7	18	4	1	2	2
⑧新材	1,198	697	479	572	494	381	324
⑨搬入土砂利用量	1,751	1,413	1,173	1,211	945	837	825
⑩現場内利用		246	2,083	1,850	1,145	2,048	2,121
利用土砂の建設発生土利用率 (②+③+⑥+⑦+⑩)/(⑨+⑩)	31.6%	58.0%	85.3%	81.3%	76.4%	86.8%	89.0%

注1:平成7年度は現場内利用量を調査していない。

注2:平成12年度の現場内利用量は、100%現場内完結工事を含まない。

表5. 建設発生土の発生・搬出状況

(単位:万m³)

	平成20年度	平成24年度	平成30年度
建設発生土発生量	2,340	3,305	3,546
②工事間利用	422	438	474
③土質改良土	25	13	21
④準有効用	163	176	276
⑤内陸受入地	567	631	653
①場外搬出量	1,176	1,258	1,425
⑩現場内利用量	1,164	2,048	2,121
建設発生土有効利用率	75.8%	80.9%	81.6%

3. 建設廃棄物、建設発生土のリサイクルフロー

(1) 建設廃棄物

① アスファルト・コンクリート塊及びコンクリート塊

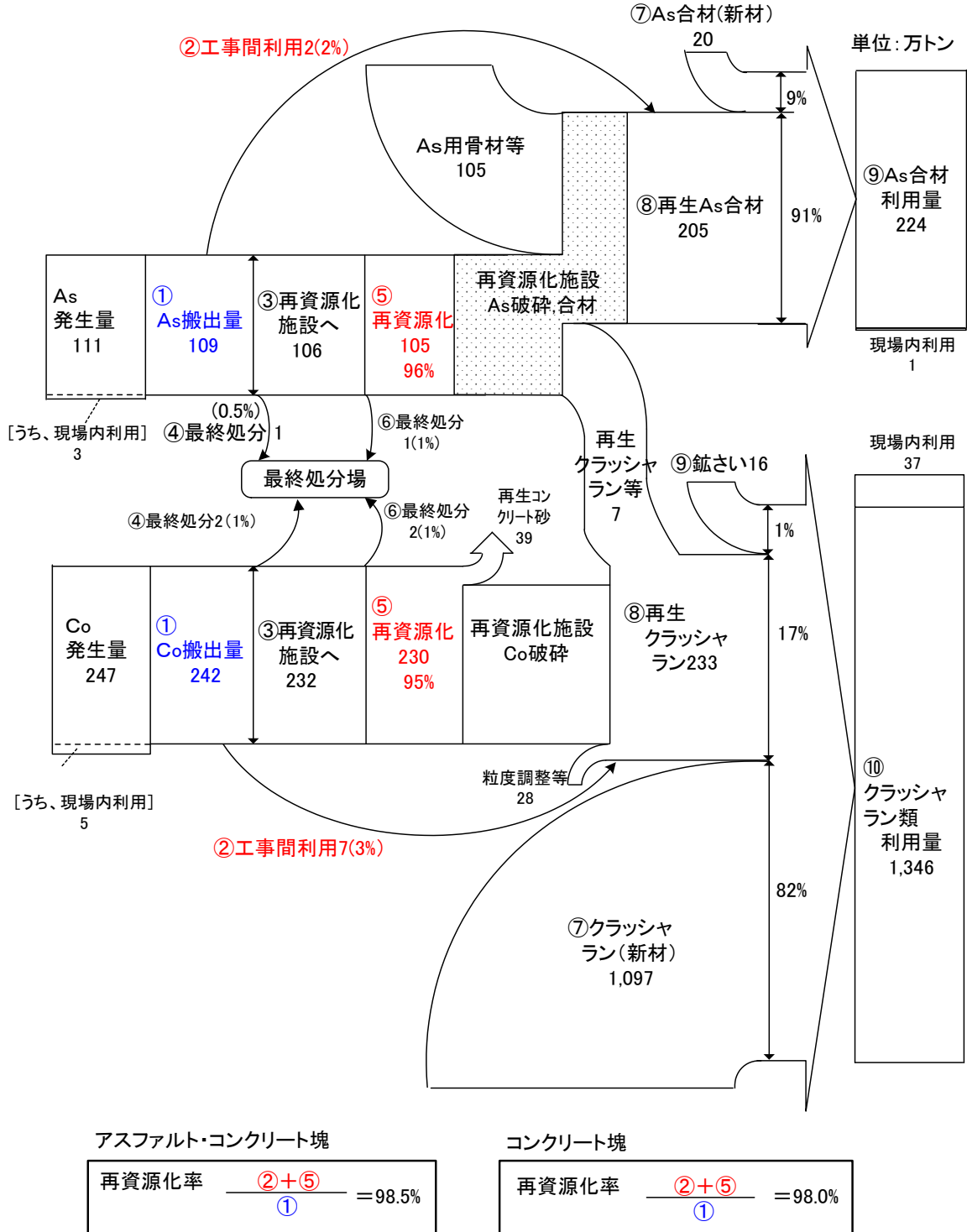
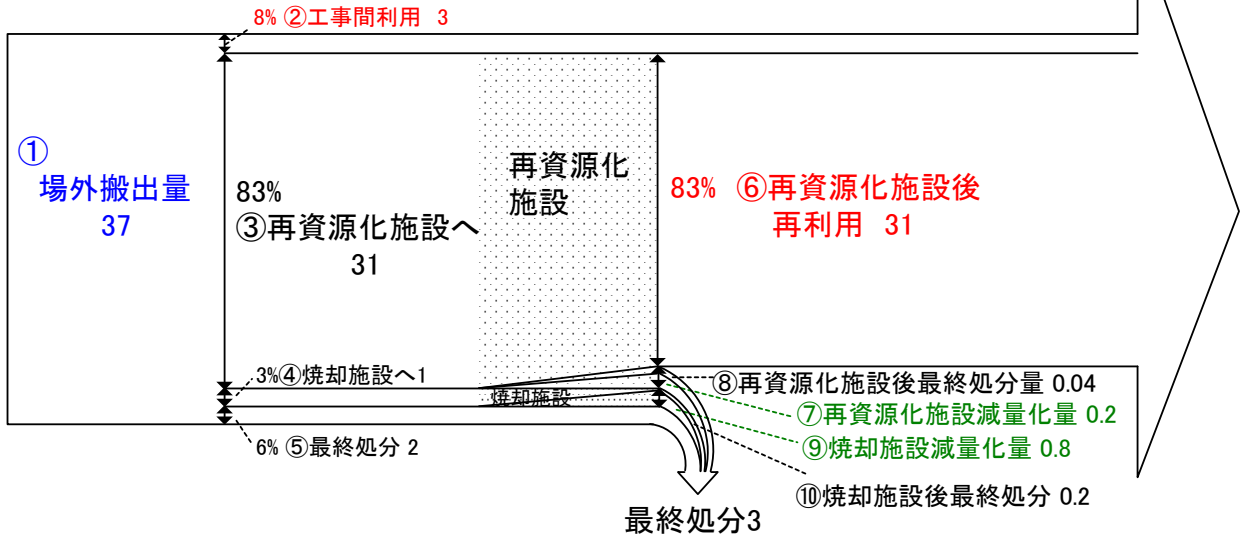


図10. アスファルト・コンクリート塊及びコンクリート塊のリサイクルフロー

※四捨五入の関係上、合計があわない場合がある。

②建設発生木材

単位: 万トン



再資源化・縮減率 $\frac{(②+⑥+⑦+⑨)}{①} = 93.3\%$

再資源化率 $\frac{(②+⑥)}{①} = 90.4\%$

図11. 建設発生木材のリサイクルフロー

※四捨五入の関係上、合計があわない場合がある。

③建設汚泥

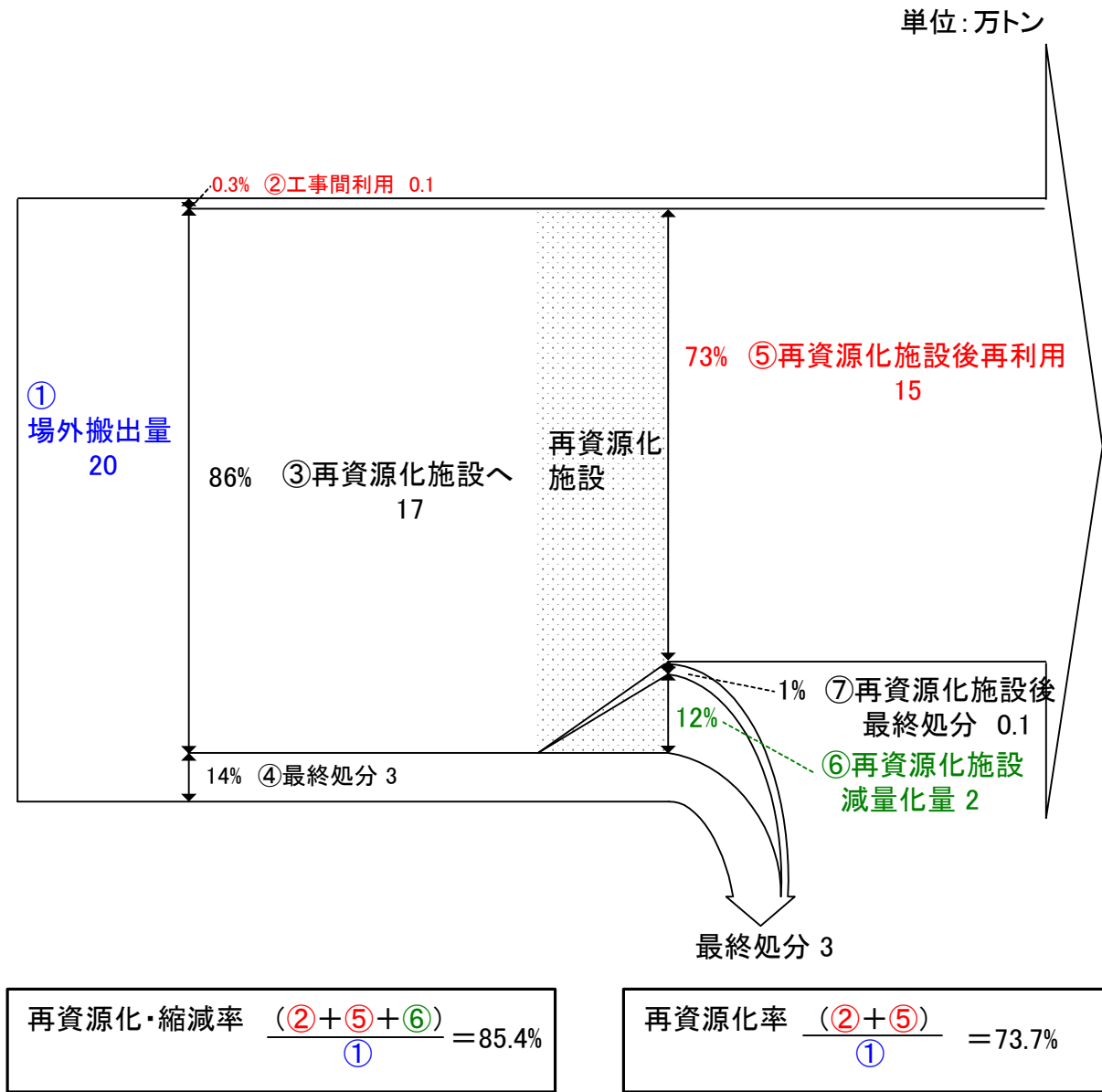
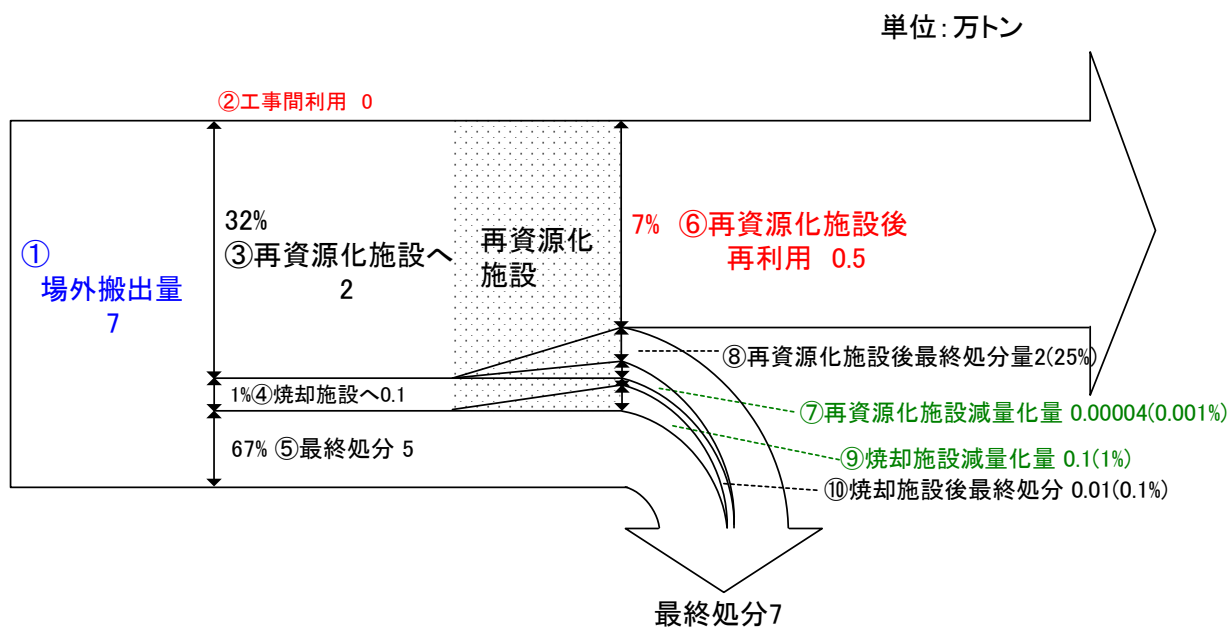


図12. 建設汚泥のリサイクルフロー

※四捨五入の関係上、合計があわない場合がある。

④建設混合廃棄物



$$\text{再資源化・縮減率} = \frac{② + ⑥ + ⑦ + ⑨}{①} = 7.9\%$$

$$\text{再資源化率} = \frac{② + ⑥}{①} = 6.9\%$$

図13. 建設混合廃棄物のリサイクルフロー

※四捨五入の関係上、合計があわない場合がある。

⑤建設発生土搬出及び土砂利用状況

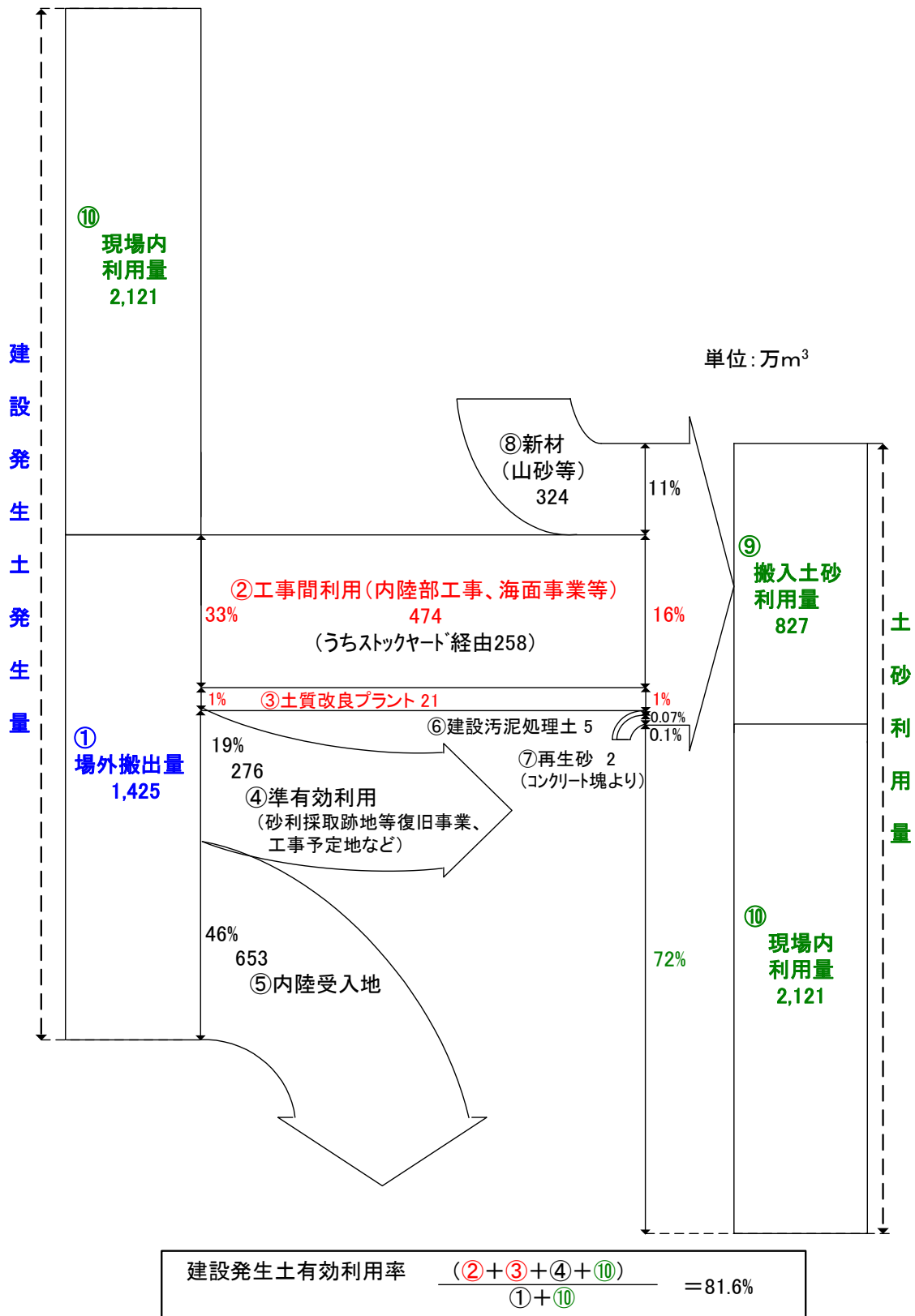


図14. 建設発生土搬出及び土砂利用搬入状況

※四捨五入の関係上、合計があわない場合がある。

5. コンクリート塊の再生利用について(全国値)

工事現場から搬出されるコンクリート塊は、そのほとんどが道路の路盤材等の再生砕石等として利用され、約 99%が再資源化されています。

表6. コンクリート塊の再資源化率(拡大推計結果)

(1)コンクリート塊の排出量	36,896
(2)コンクリート塊の再資源化量	36,647
(3)コンクリート塊の再資源化率 (2)／(1)	99.3%

しかしながら、今後、公共工事の減少等によりコンクリート塊の需給バランスが崩れるなどして、供給過多となった場合の新たな利用手法の一つとして、コンクリート塊の骨材利用が考えられます。

本調査では、「コンクリート用再生骨材(H、M、L)を用いた生コンクリート」の利用実績を調査しました。その結果、約 12 万トンの利用が明らかになりました。

表7. 再生骨材コンクリートの利用実績(単純集計結果)

利用実績(千トン)	H24	H30
(1)コンクリート用再生骨材(H)を用いた生コンクリート	52	64
(2)コンクリート用再生骨材(M)を用いた生コンクリート	2	50
(3)コンクリート用再生骨材(L)を用いた生コンクリート	1	5
合計	55	119

5. ブロック別の建設副産物再資源化等状況

表8. ブロック別の建設副産物再資源化等状況

(単位:%)

		北海道	全国
アスファルト・ コンクリート塊		98.5	99.5
		(98.4)	(99.5)
コンクリート塊		98.0	99.3
		(98.2)	(99.3)
建設発生木材 (縮減含む)		93.3	96.2
		(93.8)	(94.4)
建設汚泥 (縮減含む)		85.4	94.6
		(60.7)	(85.0)
建設混合廃棄物 (縮減含む)		7.9	63.2
		(15.0)	(58.2)
建設混合廃棄物 排出率		1.7	3.1
		(2.8)	(3.9)
建設廃棄物全体		94.9	97.2
		(93.5)	(96.0)
建設発生土有効利用 率		81.6	79.8
		(80.9)	(77.8)

注1：1段目は、平成30年度の値

2段目の()は、平成24年度の値

注2：建設発生木材については、伐木材、除根材等を含む数値である。

【各建設副産物の再資源化等状況の算出方法】

- ・アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊：
再資源化率＝(再使用量＋再生利用量)／搬出量
- ・建設発生木材(縮減含む)：
再資源化・縮減率＝(再使用量＋再生利用量＋熱回収量＋縮減量(焼却による減量化量))／搬出量
- ・建設汚泥(縮減含む)
再資源化・縮減率＝(再使用量＋再生利用量＋縮減量(脱水等による減量化量))／搬出量
- ・建設発生土有効利用率：
建設発生土有効利用率＝(現場内利用量＋工事間利用等＋適正に盛土された採石場跡地復旧や農地受入等を加えた有効利用量)／建設発生土発生量